



## 季節の行事【ひなまつり編】



### ひなまつりとは

女の子のすこやかな成長と健康を願う、3月3日の「桃の節句」の行事です。由来は中国から伝わった「五節句」という行事のひとつ「上巳」。季節の節目を意味する「節」は、昔から邪気が入りやすいとされていました。上巳には、中国では川で身を清める習慣がありましたが、日本では紙などで作った人形で自分の体をなでて穢れを移し、川に流すことで邪気祓いをする行事としてひろがっていったそうです。

### ひな人形の始まり

日本の公家には「ひいな（ひな）遊び：人形を使ったおままごと」という幼い女の子の遊びがありました。江戸時代になると、公家の女性が、権勢を誇る武家にお嫁に行くことがしばしばあり、嫁入り道具としてひな人形が武家社会に持ち込まれていきました。それから、ひいな遊びは、武家や裕福な町人の間で流行。だんだんと上巳の節句と結びついて、ひな人形を楽しむ習慣が生まれたそうです。

### つるし雛って？

つるし雛が始まったのは、江戸時代といわれています。特別裕福ではない一般の家庭では、雛人形はとても高価で、なかなか手に入らないものだったよう。そのため、一般の家庭のお母さんやおばあちゃん、叔母さんから近所の人たちまで、みんなで少しずつ小さな人形をつくり、持ち寄って「つるし雛」が作られ始めたそうです。人形それぞれに意味があります。全体としては、「衣食住に困らないように」との願いが込められています。



### ひなまつりの食べ物



#### ハマグリのお吸い物

ハマグリの貝殻はもともと対だったものだけがぴったり合い、貝合わせなどの遊びで使われたことから、一生添い遂げる仲の良い夫婦にちなんでいるそうです。



#### ひし餅

植物のヒシ（菱）は、水面に広がって繁ることから、ヒシ形は成長や繁栄のシンボルとして古くから親しまれていたようです。桃の節句のひし餅には、女の子の健やかな成長と豊かな人生への願いが込められています。



#### ちらし寿司

かつてにお祝いごとに提供されていた「なれ寿司」が、だんだん「ばら寿司」へと変化していき、彩りの良い「ちらし寿司」が好まれるようになったようです。

<具材に込められた願い>

- ・エビ：腰が曲がるまで長生きできるように
- ・レンコン：遠くまで見通せるように
- ・豆：健康でマメに働けるように



#### ひなあられ

ひなあられの色は、3色の場合は生命、4色の場合は四季をイメージしていて、それぞれ、女の子の健やかな成長への願いが込められています。

コロナウイルスで家にいる今だからこそ、ひなまつりの行事食を作ってたべてみたり、つるし雛やひな人形を折り紙などで作って飾ってみたりなどひなまつりを楽しんでみてはいかがでしょうか。